国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release

令和４年７月１１日
青森河川国道事務所

岩木川で小学生と一緒に水生生物調査を行います！

～水生生物の生息状況で水質を判定～

国土交通省では、川の生きものを指標として河川の水質を総合的に評価するため、地域の皆様のご協力を頂き『全国水生生物調査』を実施しています。
青森河川国道事務所において、弘前市立大成小学校の児童とともに下記の日程で実施します。
併せて、川を安全に気をつけてながら楽しく遊んで欲しい！との思いを込めた学習会も行います。

※新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じた上で実施します。

【日　時】
令和４年７月１２日(火)　９：３０～１１：００

【場　所】
岩木川**「みずべの学習ひろば」**（藤崎町大字藤崎字郷士川原地内）・・別図参照

【参加校】
弘前市立大成小学校（４学年　４５名の参加予定）

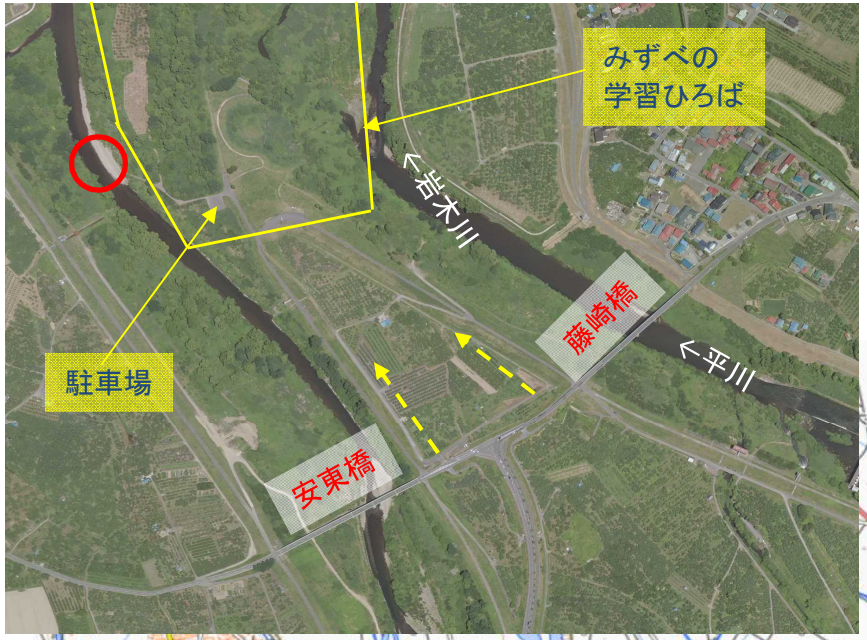
(1)調査概要
○サワガニ、カワゲラ類等の水生生物が生息しているかどうかで水質を判定
○子どもたちにもわかりやすく、特別な機材を用いないため、誰でも簡単に参加可能
○身近な自然環境に接することで、身近な環境問題への関心を高める良い機会
○昭和 59 年度から国土交通省・環境省が実施

(2)調査方法
○河川に生息する水生生物のうち、[1]全国各地に広く分布し、[2]分類が容易で、[3]水質に係る指標性が高い、29 種の指標生物を調査
○河川で水生生物を採集し指標生物の同定・分類を行い、地点ごとに、I（きれいな水）、II（ややきれいな水）、III（きたない水）、IV（とてもきたない水）の４階級で水質の状況を判定
○川の生きものを調べよう －水生生物による水質判定－ ［調査テキスト］
https://www.mlit.go.jp/river/shishin_guideline/suisituhantei/text.pdf

※取材については、マスクの着用等感染拡大防止対策をお願いします。
※発表記者会　：　青森県政記者会、建設関係専門紙、津軽新報社

問い合わせ先
国土交通省東北地方整備局青森河川国道事務所
青森市中央三丁目２０－３８ＴＥＬ０１７－７３４－４５２１（代表）
副所長（河川担当）　金（こん）　真一郎（しんいちろう）（２０４）
河川占用調整課長　　工藤（くどう）　賢正（けんせい）（３４１）

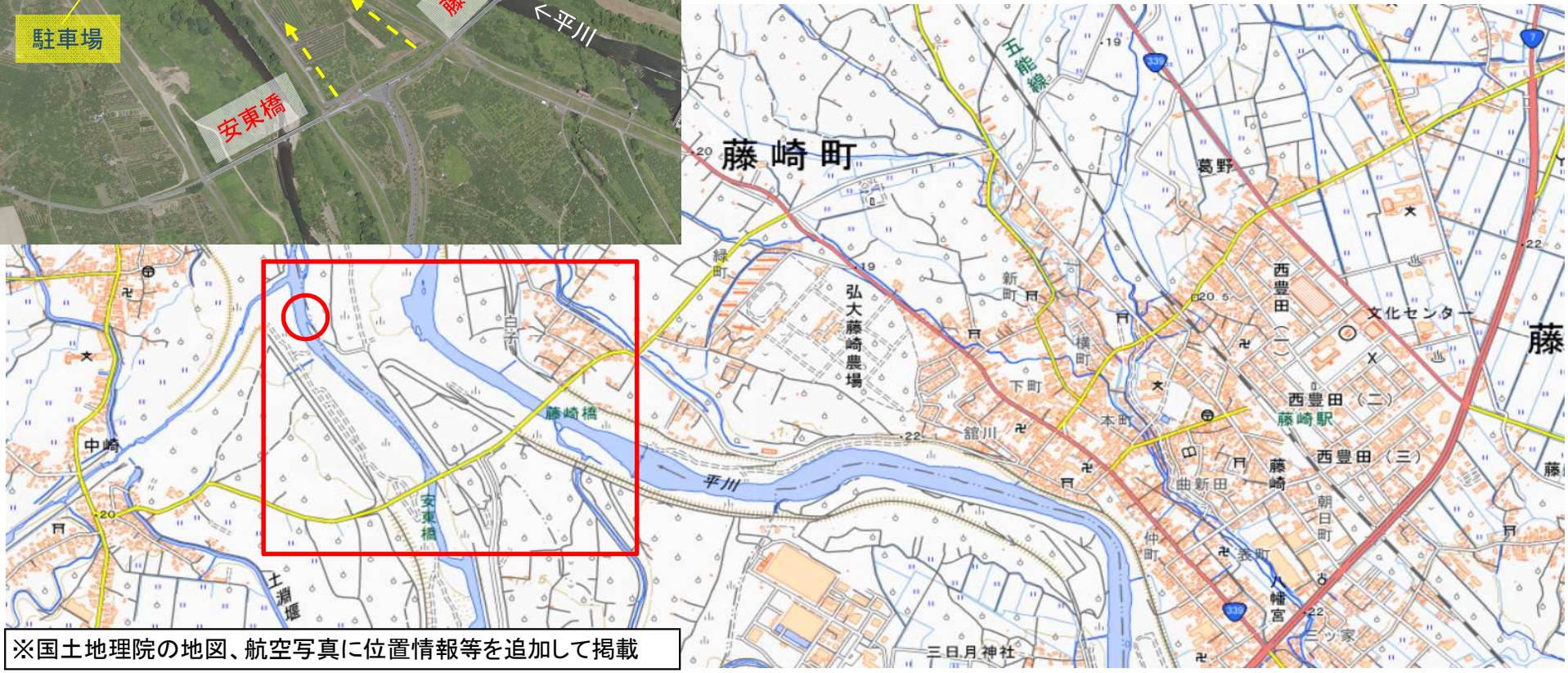
案内図



「みずべの学習ひろば」付近の河川敷
藤崎町大字藤崎字郷士川原地内

藤崎橋と安東橋の間の北側ににある河川敷です。藤崎橋西側または、安藤橋東側の堤防道路から、お進みください。（黄色破線）

実施場所は、「みずべの学習ひろば」駐車場から、下りていった先の岩木川沿いの川原となります。（赤丸）



※国土地理院の地図、航空写真に位置情報等を追加して掲載

■現地管理担当出張所　:藤崎出張所　南津軽郡藤崎町大字藤崎字村井36－1
出張所長　山谷　正樹　0172－75－3314

過去の実施状況



集合写真



水生生物調査についての説明



「透視度計」を用い、川の水の透明度を調査



水難事故防止のためライフジャケット着用の上での調査





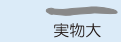
水辺で採集した生物が、どのような水質で生息する生物なのかを調べることにより、水質を判定します

川の生きものを調べよう

水生生物による水質判定

Ⅰ きれいな水

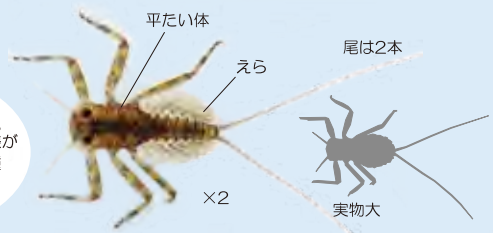






ナミウズムシ

石の表面にはりついていて、伸び縮みする
中・下流部には外来種がいることがある



ヒラタカゲロウ類

流れの速い石の表面にはりついている



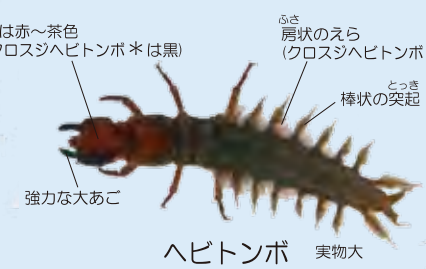
カワゲラ類

体ががんじょうな感じがする
石の下やすき間にいる



サワガニ

体色は赤色、茶色、青白色のものがいるが、
同じ種類である



ヘビトンボ

流れの速い石の下にひそんでいて、
えものをおそう



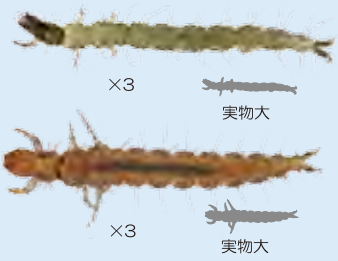
ブユ類

急流の岩や石に吸盤ではりついている
集団をつくり、石が黒く見えることもある



アミカ類

腹面に吸盤があり、急流の岩や石に
はりついている



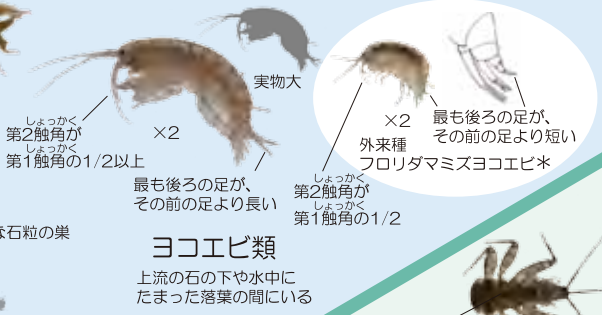
ナガレトビケラ類

流れの速いところにいる



ヤマトビケラ類

流れの少しゆるやかなところの石面に多い



ヨコエビ類

上流の石の下や水中に
たまった落葉の間にいる



タニガワカゲロウ類

体はヒラタカゲロウ類に似ている
流れの速いところにいる

Ⅰ，Ⅱ両方でみられる水生生物（指標種ではない）



チラカゲロウ

流れのやや速いところにいる



ヒゲナガカワトビケラ類

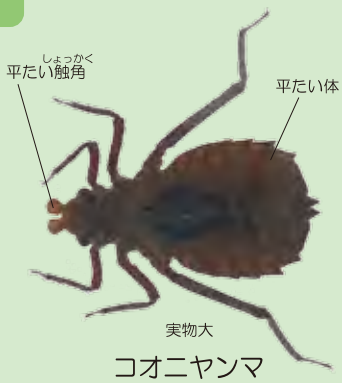
流れの速い石の間に網をはってえさを集める
体色は茶～黒色

Ⅱ ややきれいな水



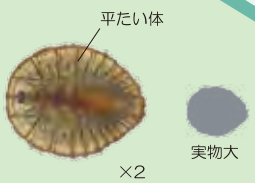
カワニナ類

流れの少しゆるやかなところにいる
外来種のコモチカワツボ＊は数mmと小型



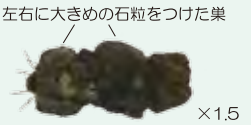
コオニヤンマ

流れが少しゆるやかなところにいる



ヒラタドロムシ類

石の表面にはりついている



ニンギョウトビケラ類

流れが少しゆるやかなところ
の石面にいる



コガタシマトビケラ類

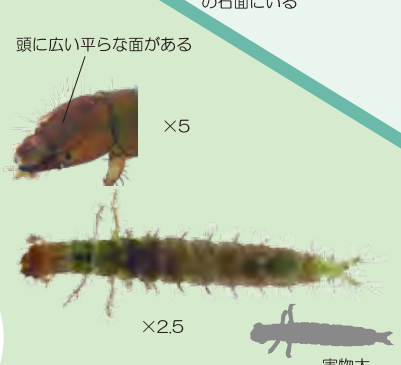
頭部の前縁に浅い凹みがある



ゲンジボタル

流れが少しゆるやかなところにいる
カワニナをえさとする



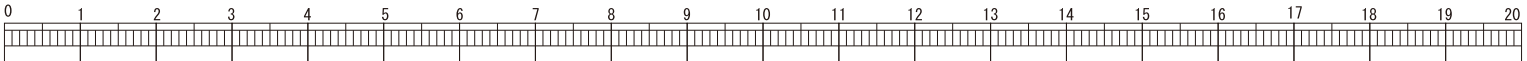


オオシマトビケラ

流れが少し速いところにいる

＊のついている生物はよく似ていますが指標種（水質判定に使う水生生物）ではありません。

平成23年度版



Ⅲ きたない水



ミズムシ

落葉のあるところではきれいな水にもいる



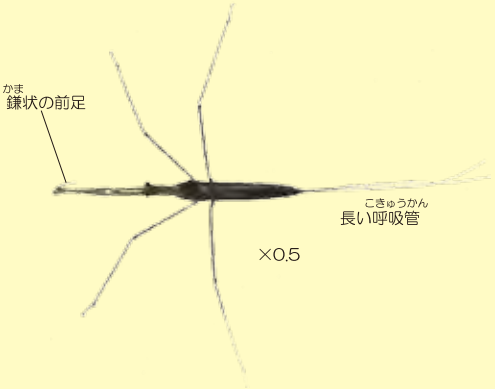
シマイシビル

背中に縦縞模様がある
伸びたり縮んだりする
尾の先に吸盤がある



タニシ類

流れのゆるやかなところにいる



ミズカマキリ

川では川岸の草の中などにいる

Ⅳ とてもきたない水



エラミミズ

尾部にえらがある
流れのゆるやかなところにいる



サカマキガイ

多くの巻貝と違い、左巻き
流れのゆるやかなところにいる



アメリカザリガニ

北アメリカ原産の外来種
流れのゆるやかなところにいる



ユスリカ類

腹部に2対（4本）または1対（2本）のひも状のえらがある
瀬でみられる赤いユスリカはセスジユスリカやハイイロユスリカが多い



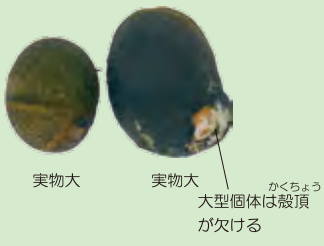
チョウバエ類

尾部、腹部背面にかたい部分（キチン板）がある

汽水域（海水が混じっているところ）

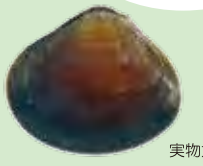
Ⅱ ややきれいな水





イシマキガイ

石や護岸にはりついている
淡水域にいることもある



ヤマトシジミ

砂や泥の中にいる
淡水域にはマシジミ＊や外来種のタイワンシジミ＊がいる

Ⅲ きたない水



イソコツブムシ類

石の下にいる
さわると丸くなる

ニホンドロソコエビ

泥の上や中にいる
河川の上・中流部にも淡水性のヨコエビ類がいる

＊のついている生物はよく似ていますが指標種（水質判定に使う水生生物）ではありません。

